

わかりあい そろえて続けて つなぐ 小中一貫教育

1. なぜ、小・中をつなぐのか

(1) 子どもの身体的発達が早くなった

①身長の平均値の変化（昭和 23 年と平成 25 年の比較）

- ・身長の伸びの大きい時期が早まっている

②体重の平均値の変化（昭和 23 年と平成 25 年の比較）

- ・体重の伸びの大きい時期が早まっている



(2) 段差への対応が必要になった

○中 1 ギャップへの対応

- ・不登校の増加
- ・自己肯定感の減少

○小・中一貫教育のイメージ

- ・リレーゾーンをつくる

小学 6 年生と中学 1 年生は、小中学校のリレーゾーン
できるだけスピードを緩めないバトンパスを

(3) 人のつながりが少なくなった

①世帯別構成割合

- ・三世帯世帯の減少

②児童のいる世帯及び平均児童数

- ・児童のいない世帯の増加

○門真のめざす教育

- ・人とのつながりの中で学び育つ学校

2. 小中連携・一貫教育の定義

◇小中連携教育 キーワード「情報交換」「交流」「接続」

- ・小・中学校が情報交換したり、交流したりすることを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

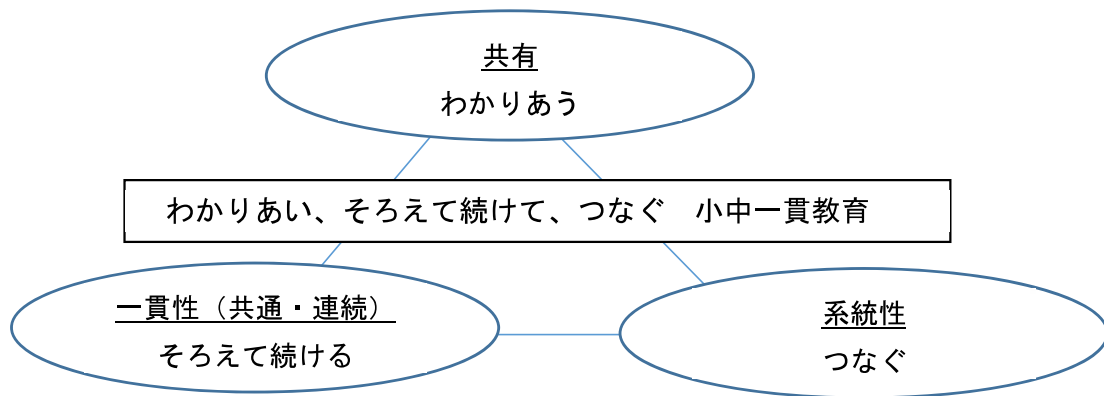
◇小中一貫教育 キーワード「共有」「一貫（共通・連続）」「系統」

- ・小中連携のうち、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育 ※教育課程＝教育の計画

小中学校が一体化した学校だけでなく、小中学校が併設している場合や、小中学校が分離している場合でも、小中一貫教育が進められています。

それは、この「小中一貫教育の定義」に合っていれば、小中一貫教育と呼べるからです。

3. 小中一貫教育を、どのように進めるのか



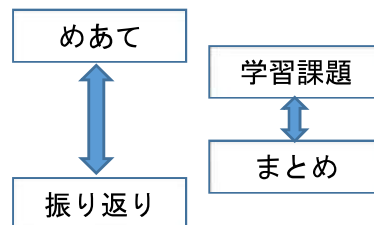
(1) 共有……わかりあう 共有は出発点であり到達点でもある

- ①【目的】 目指す子ども像を共有……校長主体から主任会主体へ そして一人ひとりへ
- ②【目標】 目指す学校像を共有……先進校の視察から実践へ
- ③【計画】 教育課程を共有……主任提案からプロジェクト制へ



(2) 一貫性＝共通+連続……そろえて続ける 何を一貫させるのか

- ①授業スタイルをそろえて続ける
- ②学習ノートをそろえて続ける
- ③「話し合い」をそろえて続ける
- ④発表スタイルをそろえて続ける
- ⑤家庭学習をそろえて続ける
- ⑥「見方・考え方」をそろえて続ける
- ⑦学習規律・生活規律をそろえて続ける



(3) 系統性……つなぐ 教育を縦につなぐ

- ①単元をつなぐ……単元系統図など
- ②授業をつなぐ……小学校高学年における教科担任制
- ③指導をつなぐ……相互乗り入れ指導

「人は人を浴びて人となる」

子どもは人のつながりの中で育てたい